

② 年齢別の歩行中の交通事故 死傷者数について

図2は平成23年から平成27年の歩行中の交通事故の死傷者数を年齢別のグラフにしたものです。図1の5歳刻みの構成率では分かりませんでしたでしたが、死傷者数を1歳刻みにするとすべての年で7歳に大きなピークが表れていることが分かります。この7歳児のピークは毎年減少してはいるものの、ある年の特別な傾向ではないことが分かります。過去5年間で最も少なかった平成27年の数字でみると、7歳児の死傷者数は1,462人を数え、20歳～60歳付近までの死傷者数は約600人前後、65歳以上では約800人前後で推移していますので、7歳児の死傷者数は成人の2.5倍、65歳以上の高齢者の約2倍の多さとなっています。

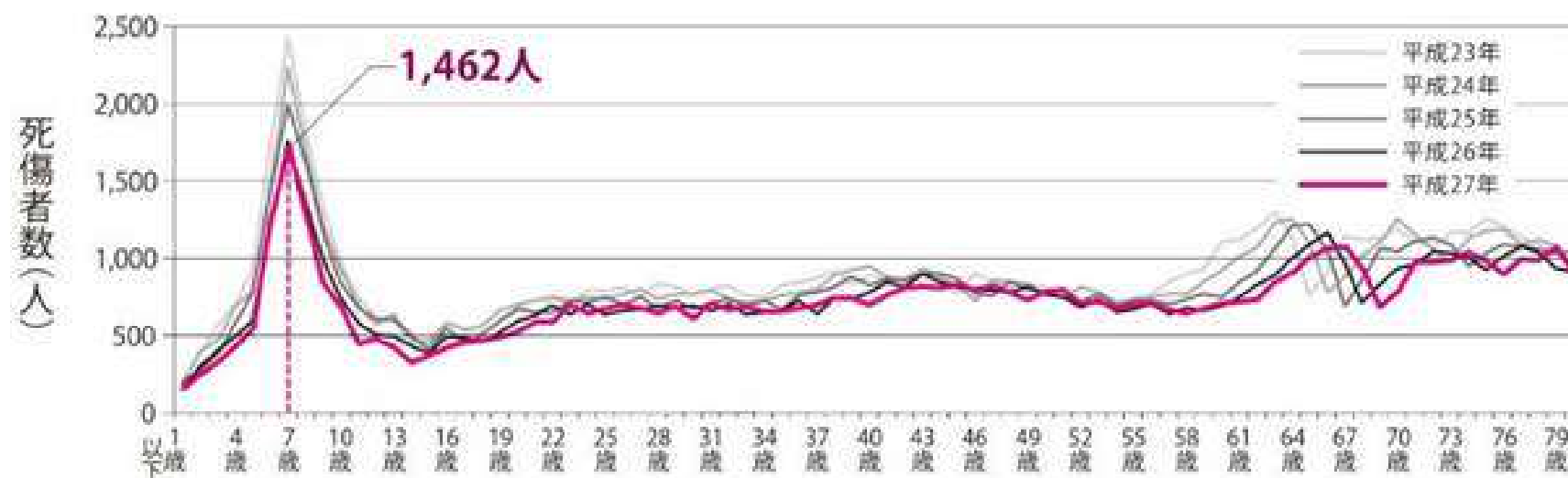


図2 歩行中の交通事故 死傷者数 (平成23年～平成27年)